平成２９年度高等学校教職５年経験者研修講座を終えて

教諭　櫻　田　文　人

１．はじめに

今年度、「高等学校教職５年経験者研修講座」を受講した。Ⅰ期とⅡ期、合わせて２日間の講座だったが、Ⅰ期は部活動の大会引率と重なり参加できなかったためレポート課題を用意して頂き提出した。受講させて頂いた、Ⅱ期の講座と合わせて報告したい。

２．研修内容

	期日・場所	内容
Ⅰ期	６月１６日（金） 秋田県総合教育センター	＜講義・演習＞生徒理解と人間関係づくり ＜講義・演習＞学校教育目標とホームルーム経営 ＜講義・協議・演習＞これからの高等学校に求められる授業改善①
Ⅱ期	９月　１日（金） 秋田県総合教育センター	＜講義・演習＞教師が使えるカウンセリングの技法 ＜講義・協議・演習＞これからの高等学校に求められる授業改善②

３．Ⅰ期の報告

次の①～④のレポート課題を提出した。

① 『生徒理解と人間関係づくり』の研修講座資料を基に、生徒理解・人間関係づくりについて取り組んでいること、あるいは今まで取り組んできたことを具体的に挙げ、その成果と課題をまとめる。

本校に勤務し、初めて学級担任をしたのは１年生のクラスだった。明るく誠実な生徒が多く、他者と交流しながら全員で１つの物事を進めていくことができるクラスだった。しかし、入学して半年が過ぎる頃になると、他者や集団に対して配慮を欠くような行動が目立ちだした。そこで、LHR の時間を利用し「Ｘからの手紙」を実践した。

「Ｘからの手紙」は様々なねらいがあるが、今回の高等学校５年経験者研修講座の『生徒理解と人間関係づくり』の資料にも記載されている「ふれあいと自他発見」や「自己有用感を獲得させること」を大きな目的として実践した。様々な手法があるが、今回は次のように行った。まず、在籍している生徒４１名全員の顔写真が載った用紙を４１枚用意する。それぞれの用紙にはランダムに誰かの氏名が記載されている。誰の手元にどの用紙が配られるかは分からない。そして、配付された用紙に氏名が記載されている生徒の「素敵だな、立派だなと思うところ」、「長所」、「真似したい、見習いたいところ」などのポジティブな面を文章で記載する。（例えば、Ａさんの手元にＢさんの氏名が書かれた用紙が配られたら、ＡさんはＢさんの良いところを記載する。）一度担任が用紙を回収し、メッセージが書かれた生徒に用紙を再度配付し読ませるという形式で取り組ませた。最初は何を書けばよいのか悩んでいる生徒もいたが、どんな些細なことや本人が覚えていないような姿でもいいから書くように指示すると、箇条書きで相手のポジティブな面を記入し始めた。自分に向けて書かれたＸからの手紙を読み始めると、生徒たちはニコニコとした柔らかい表情を浮かべていた。

担任である自分自身が気づけていなかった、生徒の長所・ポジティブな面を知ることができた。また、ある生徒は「先生、これまたやりましょう。褒められるとやる気出ます。」と話していた。課題は様々あるが、自己有用感を感じた後の次の段階に向けた指導を計画・実践できなかったことが挙げられる。自他の発見を１対１の関係で終わらせず、何度も繰り返していくことも必要だったのではないかと感じている。